

地球温暖化対策実施状況書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 （届出者）の名称	学校法人 梅村学園 中京大学
地球温暖化対策事業者 （届出者）の住所	愛知県名古屋市昭和区八事本町101-2
工場等の名称	学校法人 梅村学園 中京大学
工場等の所在地	名古屋市昭和区八事本町101-2
業種	教育、学習支援業
業務部門における 建築物の主たる用途	学校
建築物の所有形態	自社ビル等（自ら所有し自ら使用している建築物）
事業の概要	大学
計画期間	令和4年4月1日 ～ 令和7年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

公表期間	令和5年6月30日 ～ 令和5年9月28日		
公表方法	○	揭示 閲覧	（場所） 中京大学 豊田キャンパス 8号館B1F 管財課豊田オフィス
		ホーム ページ	（HPアドレス）
		冊子	（冊子名・ 入手方法）
		その他	（その他詳細）
公表に係る問合せ先	0565-46-1234		

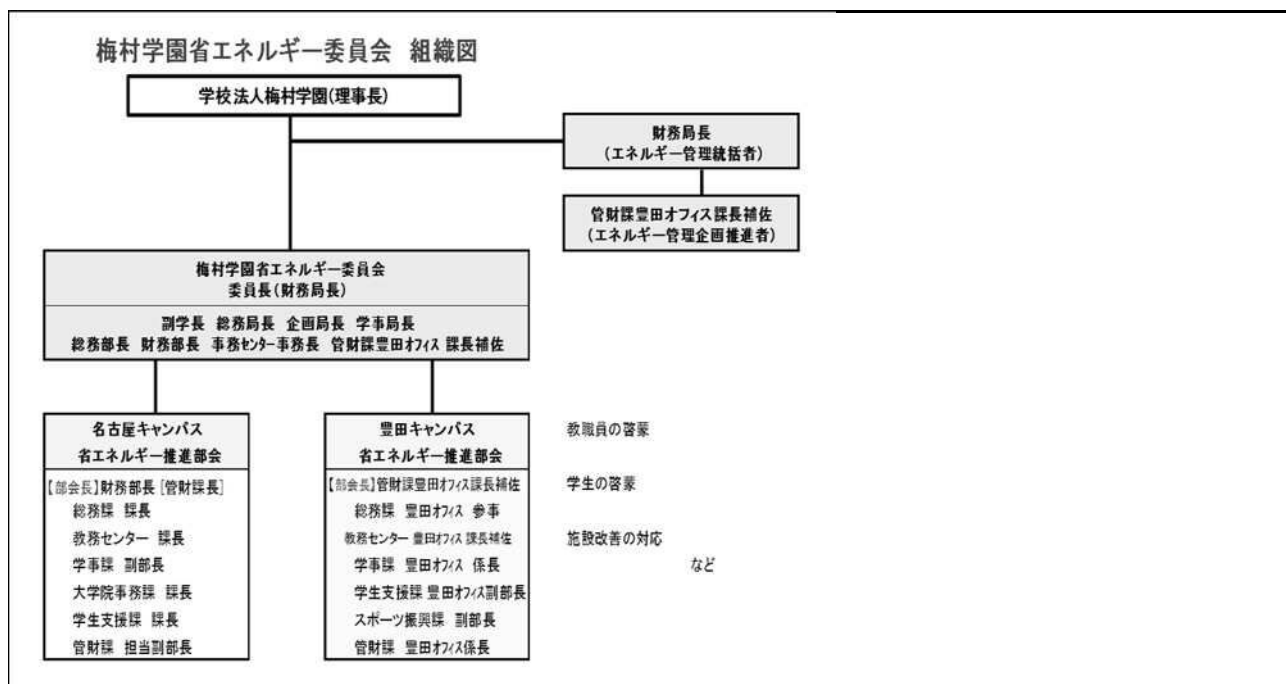
3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

本学は、地球温暖化対策をはじめとする地球環境保全の重要性を認識し、教育活動を通じて持続的発展が可能な社会の実現に貢献します。

1. 持続的な環境改善
PDCAサイクルに基づく環境施策の継続的改善に努めます。
2. 省資源・省エネルギー活動の推進
学内施設が使用する電気・燃料等の原単位（㎡）当たり使用量を令和6年度までに令和3年度比約3%削減を目標とする。
3. 環境に配慮した自動車利用の推進
公共交通機関を極力利用した通勤・通学方法等の励行努力をする。
4. 廃棄物の発生抑制・リサイクルの推進
廃棄物発生量の抑制努力をする。
5. 環境教育と学内外への環境コミュニケーションの推進
教育活動を通じ環境教育を進める。

(2) 地球温暖化対策の推進体制



4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 1 年度目（令和 4 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		3,045	t-CO ₂
（温室①を酸効除炭ガス換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）	3,045	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量及び原単位排出量
------------------	--------------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度			
温室効果ガス総排出量	3,100	t-CO ₂	3,007	t-CO ₂	3,045	t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）			3.0	%	1.8	%		%		%
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）						%		%		%

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度			
原単位あたりの排出量	0.03049	t-CO ₂ / m ²	0.02958	t-CO ₂ / m ²	0.02995	t-CO ₂ / m ²		t-CO ₂ / m ²		t-CO ₂ / m ²
削減率（対 基準年度）			3.0	%	1.8	%		%		%
原単位あたりのみなし排出量						t-CO ₂ / m ²		t-CO ₂ / m ²		t-CO ₂ / m ²
削減率（対 基準年度）						%		%		%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

一部の吸収式冷温水機を複数の GHP 式に置き換えて部分的な空調時の効率を上げたことと、照明の LED 化を進めていることからエネルギー使用量と温室効果ガス排出量の削減となりました。ただし、新型コロナウイルス感染症対策もあり実施していたオンライン授業から対面授業に戻しており、引き続き感染症対策の換気のため空調の効率は悪くなっています。また、自動車が増え、ガソリン使用量が少し増えています。

備考 1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考 2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考 3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考 4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー・省資源の行動の実践・冷暖房	・運転時間の短縮 ・冷房温度27度、暖房温度20度を徹底する。 ・空調機器を順次高効率空調に換える。	・原単位当たり温室効果ガス発生量を令和3年度比3%削減する。	・教室等にポスターを設置し省エネ意識の高揚を促す。 ・一部の教室で授業終了毎にタイマーによる空調停止を実践している。 ・空調運転箇所・時間の見直しを行った。
省エネルギー・省資源の行動の実践・照明	・使用していない教室の消灯を徹底する。 ・電球をLED照明に切り換える。 ・LED照明に順次更新する。	・新校舎で使用する蛍光灯については全て高効率照明を採用する。	・一部の教室で授業終了毎のタイマーによる消灯を実践している。 ・電球をLEDに交換している。 ・既設照明を順次LED照明に更新している。 ・照明パターンの見直しを行った。
省エネルギー・省資源の行動の実践・水道	・節水の為、トイレに擬音装置を設置する。 ・井戸水等を利用する。	・市水の使用量を削減する。 (目標3%削減)	・既設の二本の井戸は、散水や洗浄用に使用のほか、ろ過により飲料水として利用。災害時用の水インフラとして活用をしている。
廃棄物の排出抑制	・両面コピー・裏紙利用によりコピー用紙を削減する。 ・オフィス古紙を分別回収し、リサイクルする。	・リサイクル率を上げる。	・分別用のゴミ箱を設置。 ・ゴミステーションには分別対応者を設置している。
自動車運輸対策	・アイドリングストップ・エコドライブの徹底を励行する。 ・自動車を更新する時は、電気自動車、または、ハイブリッド車への切替えを検討する。	・ガソリンの使用量を削減する。	・公用車1台毎に使用理由・距離を記録し、不必要な使用をなくし、燃費把握を実践している。 ・更新時には電気自動車、ハイブリッド車への切替えを検討している。

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 1 年度目 (令和 4 年度) における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要 (規模、性能、発生エネルギー量等)
平成 24 年度	太陽光発電	出力 : 30Kw
		(年間約3万7千Kw/h 小教室10~14教室相当分を供給補完)

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区 分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
電 力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用状況

計画期間 1 年度目 (令和 4 年度) におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量 (みなしの削減量) の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

・教職員、学生への環境教育の推進 ・可能な範囲でオフィス用品 (文具関係) はグリーン購入法に基く対象商品の購入を励行 ・新入学生は、個人用のノートパソコンを必携として、ペーパーレス化の推進と一部オンライン (遠隔) 授業を実施することで、通学や教室利用にかかるエネルギー使用量を削減
--

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

・省エネルギーと省資源行動の実践 (空調の効率化 ; 空調稼働時間と期間限定の推進) ・廃棄物の排出抑制 (紙類のゴミ発生抑制とリサイクル実施 ; ペーパーレス化推進)
--